

景観重要樹木制度の現状と課題に関する研究

平成 26 年 2 月 高柳 直矢

要旨

目的

全国で指定されている景観重要樹木の活用状況や指定方法等の特徴を明らかにするとともに、長野県高山村で指定されている景観重要樹木を事例に、樹木と集落・農地・道路との関係を分析し、高山村で指定されている景観重要樹木の空間的特徴と景観的特徴を明らかにすることによって、景観重要樹木制度の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

方法

景観重要樹木の活用状況や指定方法等の特徴を明らかにするために、全国の景観重要樹木を指定している景観行政団体に対してアンケート調査やヒアリング調査を行った。また、高山村において空間的特徴と景観的特徴を把握するために、樹木と集落・農地・道路との距離・比高・仰角を地形図により算出し、現地調査によって樹木と各要素との間の可視不可視の関係を明らかにした。

結論

景観重要樹木を指定している多くの自治体において、地域を特色づけるシンボルとなる樹木を自治体の PR に活用していることや行政主導による指定候補の抽出を行うことで樹木を指定していること、さらに道路や学校などの公共空間に樹木は多く立地していることがわかった。また、高山村の景観重要樹木は道路の近くに存在し、時には背後の山や林と一体で見え、大変印象的な景観となっており、樹木の位置から集落や農地が眺められ、落ち着いた農村景観を創出していることがわかった。

また課題として、景観重要樹木を指定している景観行政団体が少ないことや樹木を維持管理する際の所有者への負担を軽減すること、公募や投票による地域の住民参加を促すことによって指定を行い地域づくりにつなげることが挙げられる。

指導教員 藤居 良夫 准教授